

である。

## F. モニター評価

### 1. モニター試験の目的と概要

本開発は、聴覚障害者に、バリアフリーを実感させることが終局の目的である。

この目的が、ループ補聴により達成しえるのか否かを具体的に判定できる資料を得るのがモニター試験の目的である。

この目的を達成するために、以下の4環境下で、同じ内容のテストを行い、そのテストの正解率により、各モニターの反応を表4に示す基準により明らかにした。

そして、その反応毎に対象モニター数

を分母にして環境の違いによる聴取力の違いを判定した。

なお、テストの進行状況をモニターが視覚的に確認できるように、社内に設置されたテレビ画面に進行中の問題を逐次表示するようにした。

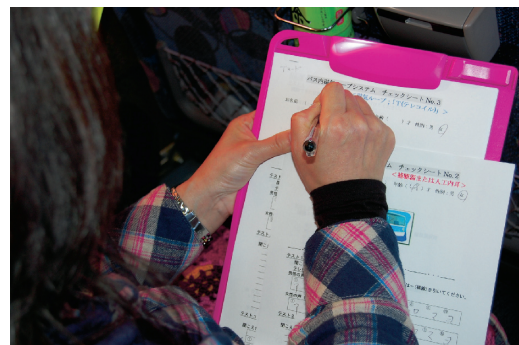
また、テストに当たっては、新たな回答用紙を、その都度配布すると共に、テスト終了後はその回答用紙を迅速に回収して、モニターが前回の回答に影響されないようにした。

テスト番号	バスの状態	補聴環境
①	高速道路走行中	社内のスピーカを通して聴取すべき音声を発信。補聴器等は、内臓マイクにて車内の音声をキャッチ。
②	アイドリング駐車中	社内のスピーカを通して聴取すべき音声を発信。補聴器等は、内臓マイクにて車内の音声をキャッチ。
③	高速道路走行中	車載型ループ補聴を使用。補聴器等は、Tモードで磁気信号をキャッチ。
④	アイドリング駐車中	車載型ループ補聴を使用。補聴器等は、Tモードで磁気信号をキャッチ。

図5（実証試験の状況写真）



実証試験車内風景



チェックシート記入状況